



発掘後のようす



① 白石古墳群Ⅲ群1号墳

直径約16mで、本古墳群の中では最大の古墳です。入り口の両側は石を組んで段にしており、このテラス状になったところにたくさんの土器を供えていました。



② 白石古墳群Ⅰ群1号墳

直径約9mで、6世紀の後半につくられた古墳です。この時期の古墳としては一般的なもので、調査時にはⅠ群を構成する5基の古墳がー列に並んで造られていました。



③ 丸ノ口古墳群Ⅵ群2号墳

直径約12mの円墳です。石室は当時のまま残っており、奥の壁に「同心円文」と、「舟」や「波」を表したと思われる文様が描かれていました。(平成11年6月22日に町の史跡に指定)



④ 丸ノ口古墳群Ⅴ群5号墳

直径約14mの円墳です。石室の奥の壁には「円文」が3つ描かれていました。(平成11年6月22日に町の史跡に指定)



⑤ 丸ノ口古墳群Ⅴ群8号墳

直径約8mの円墳です。石室の形態が他の古墳と異なり、本古墳群中では最も古い6世紀の前半に造られた古墳です。



⑥ 丸ノ口古墳群Ⅴ群9号墳

はっきりとした盛土のない古墳です。石室は長さが90cmしかなく、本古墳群の中では最小の古墳です。

丸ノ口古墳公園 イラストマップ



発掘調査で見つかった古墳のうち、丸ノ口古墳群の特徴をよく表す古墳6基(3基<①②③>を現状保存、3基<④⑤⑥>を移築復元)を古墳公園として整備しました。このうち、装飾が見つかった2基(③④)の古墳については文様保護板や覆屋施設を取り付け、自由に貴重な装飾古墳を見学できるようにしています。また、北側には公園の全体配置図を載せたガイダンス広場(⑩)を整備していますので、体験学習の場としても活用できます。



- ① 白石古墳群Ⅲ群1号墳
- ② 白石古墳群Ⅰ群1号墳
- ③ 丸ノ口古墳群Ⅵ群2号墳
- ④ 丸ノ口古墳群Ⅴ群5号墳
- ⑤ 丸ノ口古墳群Ⅴ群8号墳

- ⑥ 丸ノ口古墳群Ⅴ群9号墳
- ⑦ 駐車場
- ⑧ 説明板
- ⑨ 案内板
- ⑩ ガイダンス広場



石室の奥壁に3つの円文が描かれています。円文の意味としては「太陽」「鏡」などをあらわしているものだと考えられています。



石室の奥壁に同心円文、舟をあらわす逆台形の文様と、そのうすうすの角の文様が描かれています。舟が描かれていること、三角の文様は波を、同心円文は太陽をあらわしているのではないかと考えられています。